知事記者会見（平成２２年１２月２８日）

●知事発表
　な　し

●幹事社質問
（１）今年一年を振り返って
（２）平成２３年度の政府予算案について

●その他
（１）国勢調査の速報値について
（２）今年一年の県内の経済状況について
（３）クニマスについて

時間：１３：００～１３：４８
場所：プレゼンテーションルーム

（幹事社）
　よろしくお願いします。
　知事の発表事項は、特にないということですので、幹事社質問から始めさせてもらいます。まず、２０１０年も様々な出来事がありましたけれども、知事、今年一年を振り返られましての所見をお願いいたします。

（知　事）
　はい、今年は一年振り返ってみますと、昨年の４月に知事に就任させていただいて、新しい計画づくりに取りかかって、今年の４月から新しい計画で動いたわけでありますが、一番大きな県政の問題としては、農業関係に始まって農業関係に終わったような気がいたします。思い出してみますと、米の戸別所得補償に伴う減反の配分率の問題で、昨年の今頃は､県の方針に対して国から大潟村のペナルティーを全部外すようにという話があって、通常であれば１２月の末に決まっていた配分（＝米の市町村別生産数量目標）が１月までずれたということで、ここで緊急記者会見を行ったことを今思い出しています。その後、５月に宮崎県で口蹄疫の問題がありまして、大変心配をしたわけでありますが、秋田には及ばなかったと。そうこうしているうちに、６月、７月が低温で農作物にはいい環境でないということで、７月になって一転して猛暑となり、結果、９月になって米が近年稀にみる不作ということになりました。そういう中で、今度は減反の割り当てが大きくなったということがありました。また、１２月の議会でも大きな議題になりましたけれども、新しい農業政策といいますか、（農林漁業の）再生のための基金の積み立ての条例等を作りま

した。そういうことからすると、県民の皆さんに一番広く共通した事象というのは農業問題ではなかったかと思います。

もう一つは、この夏、参議院議員の選挙があり、民主党が大敗して、そこから国政の混迷が始まって現在に至っているわけです。この間、地方との関係も一部ギクシャクした面もあったりしました。来年以降も、これからどうなるのか、国政の状況は目が離せない状況です。

あと、７月の出来事でしたけれども、全国の小中学校の学力テスト（＝全国学力・学習状況調査）でいい成績だったということで、一つの流れができているのかなという感じがいたします。

さらにちょっと明るい話題では、韓国ドラマ「アイリス」効果が大変ありまして、８月には製作会社、出演俳優の皆さんを（秋田県のイメージアップに貢献したとして）表彰させていただきました。１２月補正予算に「アイリス２」のロケ誘致関連予算を若干盛っていますけれども、（ロケ誘致が）できるかできないか今盛んに交渉しているところですが、一定の脈はあるのかなと思っています。また、ご承知のとおり１０月には、これも明るい話題ですけれども、ｂｊリーグのプロバスケットボールチーム「ノーザンハピネッツ」がスタートをして、大変頑張っているという状況だと思います。

ただ、そういう中で幾つか大きな問題がありまして、今年の２月定例会では、これまでの県議会史上初めて１１日間の会期延長ということで中心市街地再開発の問題が大変大きく取り上げられました。最終的にはご理解をいただいたわけですが、いろいろな問題も指摘されましたし、それへの対応もあり、ある意味では、より緊張感を持った仕事ができたということにもなるのかなと思っています。それが、昨日、起工式という運びになりましたので、まずはホッとしているというところです。

もう一つの大きな問題として、１１月の鷹巣病院のインフルエンザの問題、これは非常にお叱りを受けました。全くそのとおりであり、大変不手際があったということ、特に県民の皆様、あるいは地域の皆様に大変な不安を与えてしまったということについては、我々としても大きく反省すべき点があったと感じています。

年末になりましたら、学習・学力調査のほかに体力・運動能力等の調査でも３年連続トップクラスということで、体と頭の両方が秋田の子供は優れているという、平均的に優れているという結果が出てうれしく思っています。昨年、スポーツ立県宣言をしましたけれども、先般の駅伝もいい成績だったり、軟式野球の大会では能代高校が全国優勝したということもありました。

そういうことで今年一年振り返ってみますと、いろんなことがあったわけですが、最後にクニマス。これ非常にほのぼのとしながら根源的な様々な問題を含んだクニマスの発見ということではないかなという感じがいたしますが、明るい話題ということではないかなと思います。

こういういろいろな事象の中で、今年はいろんな面で段取りまではつけたなと。問題は、段取りをつけて解決ではありませんので、昨年、就任の年はこれはいわゆる助走段階であります。仮免なんていうことは言いません。慣らし運転といいますか、様々な形で事象をきちっと把握するということが中心で、同時に計画づくりをしたわけでして、ある意味では（新たな）県政の準備段階だったと。それら準備したものについて一定の道筋、段取り

はついたのかなと。段取りだけで終わるということでは何もなりませんので、来年はその段取り通り、あるいは段取り以上に成果を出していかなければならないという年になると思います。大きな段取りといたしましては、医療再生ということで基金を設けました。厚生連の病院も含めて、がん対策等々含めまして、財政的なバックについては一定の用意ができたと、これをどう活用していくか、成果が問われるものだと思います。もう一つの段取りというのは、いわゆる農業の基金です。来年以降の農業政策の展開の大きな土台がこれによってできたのかなと思っています。婚姻率の上昇だとかの少子化対策、あるいは、シーアンドレールに伴う秋田港の重点港湾の国の指定、二ツ井白神から大館能代空港までの高規格道路の来年以降の事業着手について足掛りがついた、というようなことではないかと思います。この道路の問題にしても港湾の問題、農業の問題、医療の問題、県政の中では非常に大きなウエイトを占めているわけですけれども、これらについて一定の道筋はつけたのかなと思っています。問題は、来年以降、これをいかにスピーディーにできるだけ早く目指すものに到達するかと、それが来年以降にかかっているのではないかと思います。

そういう中で私自身、特別風邪もひかず病気にもならずに、土曜日・日曜日は休ませていただいたことはありますけれども、一日も休まずにほとんどフル回転で働かせていただいたということで、皆さんにも感謝を申し上げます。

（幹事社）

では、今年の一年の字をお願いできますでしょうか。

（知　事）

そういうことで「段」であります。これは段取りがついたという「段」と、一つのステップという意味もあります。ステップ、一つステップを上がることができたいうことです。わかりやすく言うと、ホップ、ステップまではきたのかなと。去年がホップでありました。三段跳びでも、走り幅跳びでも最初は全体を調整するためのホップです。次のステップというのはジャンプをいかに高く遠くへ跳ぶかがステップです。ホップ、ステップ、ジャンプ、今年は、このステップの年。あるいはステップというのは車とか汽車の乗るところ、あれもステップです、そこまでは乗ったのかなと。問題は中に入ってちゃんとスピードを出せるようにというのが来年にかかっているのかなということで、なかなか難しいです。ホップ、ステップ、ジャンプのステップと、あるいは段取りが一定程度整ったという、そういうことですので、よろしくお願いいたします。下手な字で申し訳ございません。新年も書きますので、そうすると、何を書くか大体わかるでしょう。ということで、簡単にお話申し上げました。

（幹事社）

次の質問に移らせていただきます。質問はあとでまとめてお願いします。

２３年度の政府予算案がまず出てきましたけれども、それについて知事の所見と、あと県財政、県予算への影響についてお話いただけますでしょうか。

（知　事）

国の予算９２兆４，０００億円、一般会計総額は過去最高です。だた、ご承知のとおり税収は若干増えていると言っても税収を上回る国債発行、そしてまたいわゆる埋蔵金というところに頼った予算の骨格ですので、前からお話してますとおり、２３年度は何とか辻褄は合うでしょうけれども、２４年度になるとどうするのかなと、総論から言いますとそういう感じです。

結局、子ども手当の増額、あるいは高速道路の無料化と、民主党がマニフェストに掲げたものをやろうというのはわかりますけれども、そこでほかにかなりしわ寄せがいっているということが否めないのではないか思います。むしろ本質的な様々な問題を解決するための政策的なものについては、逆に削られているというところがかなりあると思います。県の予算ではできない芸当ではないでしょうか。そういうことで２４年度以降どうなるのかということ、これは当然地方にもしわ寄せがきますので、今後注意深く見ていかなければならないと思っています。

地方交付税そのものは若干増えています。これはプラスの面でしょうけれども、臨時財政対策債が若干減っています。臨時財政対策債が減ること自体はいいことですが、これは、地方税収が１．２兆円程度増えるという見込みのもとで、その分（の臨時財政対策債）が減ったというものですので、実質的な交付税は減少しています。ただ、一時ささやかれていた特例加算の１兆５，０００億円等については削除になっていませんでした。交付税については、（県の）予算をつくる最初の段階では過大見積りをしないようにしていますが、何とか来年の予算、厳しいながらも歳入については一定の見込みが立ったなという感じがします。

今度は県の問題ですけれども、今回の予算を見てみますと、ダムについては箇所付けがはっきり出てます。ただ、港湾とか道路等については箇所付け、細目がでていませんので、全体枠を見ても今後の配分がどうなるのかということはまだわかりません。箇所付けについてはこれからということでしょうから、県の事業についてまだわからないところがたくさんあります。

そういう中で、県の関係でトピックス的なものをいいますと、がん対策について、大腸がん検診等は４０歳から６０歳の間、無料になるという制度が国でできるということで、県のがん対策にも非常にプラスになるのかなと思います。また、湖沼の流域の水環境整備、水質環境というのが全国的にいろいろ問題になっています。八郎湖の水質保全ということで県も今までいろんな取組をしてきていますが、新規事業として、環境省から湖沼流域水環境健全化事業と、予算規模は大きくありませんけれどもそういう事業が認められたということです。これは、内容を説明する際にも「秋田県八郎湖のような」という箇所明示もあったようですので、我々の事業をモデル的に国で取り上げたということで、今後こういうものも活用して八郎湖の水質保全に少しは役立てることができるのかなと思っています。

経済対策、あるいは新エネルギー対策等々、あるいは新しい新農林水産ビジネス、いわゆる６次産業化とかありますけれども、我々としては新しい制度、予算の中で、どう配分を受けるかという個別の動きになっていくのかなと思っています。

地方自治体として大きな主眼に置いていた、地域主権関係ということで地域自主戦略交

付金いわゆる一括交付金、これについては約５，１２０億円ということでありますが、中身が全くわかりません。どういう配分のルールなのか、実際どの程度見込めるのかということは、今後わかるでしょうけれども、これがわからないとここの分の（県の）予算をどう組むのかと、今年は４月に県議会議員選挙、市町村長選挙、統一地方選挙が予定されているため、大体２週間から３週間前倒しで２月定例会を開催することになると思います。予算査定も内示が相当早くなる予定です。通常の年よりも早めに中身がわからないとこの関係の予算がちょっと組めないなということで、知事会の方でも早くそのルールを教えてくれと言っていますけども、今のような政治状況の中でどうなるのか心配なところであります。いずれ、来年は（地域自主戦略交付金が）今度は１兆円になるということですが、各省庁の思惑が出てくるでしょうし、各省庁とも自分の方のウエイトを高めたいということ、あるいは今度は自治体間でその配分基準によって、例えば面積と人口になりますと、人口が大きくなりますと秋田は少なくなりますけれども、面積の要件が大きくなると秋田が多くなるというようないろんな問題、自治体間でも若干考え方の相違があったりして、それをどう公平な形にするのかというのは、大変難しいのかなと思っています。ただ、トータルとしては使い道の自由度が高まっていくことはいいことですけれども、今の情報ではあまり高まるような感じではなくて、申請主義的な感じで、メニューがあってその中からの申請になりますと、一定の枠がはめられるということで懸念をしているところです。私からは以上です。

（幹事社）

幹事社から１点だけ、今の政府予算の関係ですけれども、マニフェストに掲げたものをやろうというのはわかるんだけれども、他にしわ寄せが否めないと。本質的なところが削られているような印象があるということでしたけれども。

（知　事）

例えば医師不足対策、これは県としても自主財源で寄附講座等をつくって一生懸命やっていますけれども、厚生労働省の中で子ども手当の上積み分の財源を厚生労働省の予算の中でという方針が出されましたので、結局、そういう医師不足対策だとかが削られています。結局そういうところにしわ寄せがいっているわけです。あるいはさっき言った農業の戸別所得補償の拡大はいいんですけれども、土地改良等基盤整備はほとんど増えないと。２１年度に比べるとまだ６割減みたいな感じということで、そういう基本的なところを我々は一番充実してほしいんですけれども、この農業の戸別所得補償と子ども手当をやるために省庁の中だけでとなりますと当然ほかの政策にしわ寄せがくると、そこまでしてやらなければならないのかどうかという議論が出るわけです。

（幹事社）

各社からご質問あるところはどうぞ。

（記　者）

昨日、国勢調査の速報値が出たんですけれども、その中で昭和１５年以来の秋田県の人

口の水準ということで非常にショッキングな数値が出たんですが、これについての知事の受け止めを。

（知　事）

人口というのはいきなり増えたり減ったりするわけではなくて、長い間の趨勢値がこういう形になってくるわけです。今の趨勢でいきますと今後世帯数も含め、今度は秋田市のような都市も含めて人口減少のスピードが増していくという中で、一定の時期まではかなり高齢化率が上がるということです。人口構造全体としての流れを十分見据えながら、いきなり変えることはできないわけですので、当面はそういうところを見据えながら政策決定していかなければならないと思うことが一つ。もう一つは地道であってもやはり秋田の場合には、雇用の確保、当然経済問題も絡みますけれども非常に婚姻率が低いと、もう少し婚姻率が高まって出生率が高まるというのは数字的には可能なんです。我々としては一応数字的には可能であろうという範囲で、最大限の努力をしなければならないと思っています。これは雇用対策であり、経済対策であり、農業政策であり、また、個別対策とすると婚姻率のアップのための結婚支援だとか、子育て対策、こういうものはすぐに成果は出てきませんが、こういう取り組みを長く続けながら、少しでも落ち込みのカーブを緩やかなものにしていかなければならないと思っています。いずれもう少ししますと、東京都も含めた大都市もこういう状況になるわけですので、日本全体の人口構成の構造がそういうふうになっていくというものに対して、みな危機感を感じています。それを一発で方向転換するというのはなかなか難しいということだと思います。そういう中での子ども手当なんでしょうけれども、それで少子化対策になるのかというと、必ずしもそうではないと私は思ってます。いずれにしても県政の大きな課題としていろんな取組を強化していくと、一生懸命やっていくということしか根本的な解決はないのではないかと思います。

（幹事社）

ほかに、政府予算案までのところで一旦質問ございますでしょうか。

（記　者）

一年を振り返っての部分なんですけれども、この一年を振り返って佐竹知事の県政運営として、自身で反省点というのはございますか。

（知　事）

反省点、これは危機管理の問題等々です、もう少しそういう面で気を配ってといいますか、何らかの機会にきちっとお話をしておけばよかったなと。これはいろんなジャンルにおいて、いろんな切り口で、部長会議、朝の会のときにもお話をしています。新型インフルエンザのときには相当ピリピリしたんですけれども、少し気が抜けてしまった結果なのかなと思っています。そういう意味では私自身も少し緊張感がなくなっていたのかなという反省点はあります。

個人的な性質、性格からの反省点も幾つかあるかと思います。若干言葉が乱暴になったり、ぞんざいになったりすることも議会の答弁等であったと思いますけれども、そういう

ことについて、後でしまったなと、大体あっと思うことはみな反省点になるわけでして、少しずつ気をつけなければならないと思っています。危機管理だけではなく、ちょっとそこら辺の気の緩みがあったのかなと思ってます。

（記　者）

そういった点を踏まえて、これも毎年お尋ねしているようですが、今年一年の自身の県政運営を１００点満点で評価すればいかがでしょう。

（知　事）

先程お話しましたとおり、段取り、高速道路の二ツ井白神の問題も長年の懸案であったもの、あるいは重点港湾、医療の基金、農業の基金等々、大体大きなものは段取りがつきましたので、そこまでの段階では７０点ぐらいはいただきたいと思っています。

（記　者）

では残る３０点というのは、さっきの反省点の部分になるんでしょうか。

（知　事）

反省点の部分と、これは段取りをつけてからすべてやるものではなくて、段取りをつけながら同時並行的にやらなければならないものもあります。雇用対策というものについては、実感として県民の皆さんも我々としても成果はまだ出てないというところのマイナス分が３０点はあるのかなと思います。

（記　者）

先程、県政の点数は７０点というお言葉がありましたが、民主党政権の今回の予算案を含めて現在の政権運営については点数をつければ何点になるでしょうか。

（知　事）

６０点。６０点だと大学だと落第はしない。今はわかりませんが私たちのときは大学は、６０点が単位を取れるか取れないかのギリギリでありましたので、６０点です。

（記　者）

マイナス４０点の部分は。

（知　事）

長期的な財政の問題を消費税にもっていくということ、確かに我々も消費税が必要だとは思っています。（２３年度で）子ども手当、あるいは埋蔵金を全部使ってしまって、２４年は何もないから増税だという形になるのはどうかなと思います。いくら公約、マニフェストでも、財政破綻を起こしてしまいますと何も意味はないわけです。ですから、そういう場合は、これは無理ですと、半分しかできませんとか、むしろゼロにしてという方法、いやお金のかからない方法でやりますとか、そういう理解を得た方がいいのではないかと

思います。国民世論、例えば子ども手当でさえ、もらうのはいいけれども将来の負担がどうなるのかというお母さん方、お父さん方がたくさんいます。いきなり最終的には消費税、しかもかなりの規模でやらないと難しいというようなことをしているうちに、国債の格付けが他国の例を見てみますと何かのきっかけでドーンと落ちてしまうという恐ろしさもありますので、この長期的な財源だとかに、あまりにも無頓着だというところが非常に大きな減点要素ではないかと思います。

（記　者）

今年一年を振り返って県内の経済の状況を伺いたいと思うんですけれども。

（知　事）

例のリーマンショック以降、特に県内で非常に雇用者が多く、また集積の高い電子機器、あるいは一部精密機械等、これについて非常に悪かったのが去年の始めから、２０年の後半から２１年の始めは操業率が３０％だとか２０％まで落ちたところもありますけれども、概ねある程度の回復は果たしたと。そういう意味で一息ついたというところが多いと思います。ただ、円高が重なりまして、新規雇用だとか設備投資など大きなものには至っていないと思っています。そういう中で見てみますと、やはりトヨタさんの東北への進出だとか、新エネルギー分野に対してはある程度の発注増が出てきていまして、こういうところをやれる企業、あるいはやっている企業については、今後の展望もある程度開けているのではないかと思います。ただ、まだまだ全体的にはおしなべて雇用力を回復するまでには至っていないという状況ではないかと思います。

また、もう一つ農業の面でも、これも経済ですけれど、記者会見でもお話しましたけれども、農業関係の基金を作った理由の一つとして私の頭の中にあったのは、今年、天候不順のときから県内の農家の方、直接現場へ足を運んで行きますと、米のウエイトを少なくして野菜だとか花卉をやっているところ、ものによっては夏場の天候不順で今年駄目になったところもあるんですけれども、おしなべてそういう方々が、米のウエイトを減らして大変だったけれども、野菜だとか果樹だとか花卉だとか、あるいはキノコだとか、そういうものに取り組んでいてよかったといっています。逆に今年のようなときは通常の倍から３倍の値段で売れて大変成績が良かったというところが結構多かったんです。そういう意味では、私は米も大切ですけれども、そういう特産作物というのは、まだまだ売れる要素があると、そういう積極的な農家の方が出てきているということが、農業は暗いといわれますけれども、そうではなくて、非常に明るく前向きでやっている方が今まではあまりいなかったけれども、最近は大変出てきていると思いました。

それから、農業の方が特産加工を一生懸命手がけながら、みずから道の駅だとか直売店で売ったり、東京まで売りに行ったり、そういうところで通信販売のネットワークを築いたりと、非常に積極的な動きが出てきたということで、そういう意味では全体として方向性さえきちっとしていれば、私は農業であれ製造業であれ維持・発展はしていけるのではないのかなと思います。車の時代に馬車を売ろうなんていってもこれは意味がないですから、意識改革はまだまだ必要ですし、それを県が市町村とか関係団体と一緒になってもっともっとリードしていくということが必要なのかなと思っています。全体としては非常に

厳しいわけですけれども、そういう新しい芽が出てきている、ここをどうやって伸ばすかということが、今後の秋田県経済の行方につながってくるのかなと思っています。

（幹事社）

ほかにご質問ある社ありますでしょうか。

もしなければ、その他の質問でございますか。

（記　者）

クニマスの話で、仙北市の門脇市長をはじめ関係者の方々が富士河口湖町の方に行かれましたけども、それに関連して、県として何か具体的にアクションを起こそうとか、そういうお考えはありますでしょうか。

（知　事）

昨日、門脇市長が直接お見えになりました。一緒に行った担当の職員も一緒にきていました。関係課と一緒に私もいろいろお話をお聞きしました。さらに今回の調査には県立大学の客員教授の杉山先生も同行しています。そういう中で、私は当面、生物学的な見地からの考察が必要だと思っています。主人公は「クニマス」ですので、どこかに放流して死なせてしまったとかということは一番困るわけです。ですから、これを利用しようとする考え方はちょっと置いておいて、生態だとか、どういう餌を食べるのか、どういうところに棲んでるのか、どういう環境だと生育ができるのか、これが増殖するのかというのが、まだよくわかっていないわけです。そういうことがたぶんこれから大事になってくると思います。これは、山梨県でやられると思いますが、山梨県は海がないですから、秋田県のように大規模な水産振興センターみたいなものはないようです。内水面の試験研究機関はあるようですから、中坊先生、「さかなクン」も含めて、いろんなことはこれからやられると思いますが、できれば私どもの方は水産振興センターに専門の職員がいたり、あるいは県立大の杉山先生がおりますので、その生態調査、生態学的なアプローチについて、あちらと一緒にやれればなと思います。そういうこと（＝生態について）がある程度わかってくると、賛否両論あるでしょうが、田沢湖でなくてもどこかそれに適したところがあったとすれば、こういうところだったら放流しても大丈夫だとかという、それは今すぐの話ではなくもうちょっと時間がかかるでしょうけれども、そういうことにもつながると思いますので、まずは、クニマスの生態を調べるということに参画できればなというスタンスです。そうなりますと、仙北市だけということではなく、県もということで今、仙北市と調整をとっています。来年あたり、当然こちらから、県レベルで山梨県の方にお願いをしなければなりませんけれども、科学的調査の際にはオブザーバーとして立ち会わせてほしいとか、データを提供してほしいとかということになるのかなと思っていまして、そういう形になるとすればチームを組まなければなりませんので、県の水産振興センターと県立大の先生だけではいいのかどうか、もうちょっと幅広く秋田大学にも先生がいらっしゃると思いますし、場合によっては県外の魚類学の先生、あるいは環境学の先生など、こういう方々にも参加していただくなどして、まずは生態学的な実態を把握することから始めようと思っています。

（記　者）

そうすると、そのために例えば予算を。

（知　事）

どういう形にするのか、これは、県職員が動くための旅費などは持っていますけれども、ただ、これを外部の先生方をお願いしてと、プロジェクトとしてやるとすると、いろんな予算措置が必要ですので、そこら辺はまだ今検討中です。知事査定までにまとめるようにということで指示していますが、私の考えでは、ある程度のプロジェクトチームをこちらにも作って、当然その段階では先程言った山梨県に了解をいただかなければなりません。クニマスが乱獲されると大変ですので、多分、山梨県の方では、乱獲できないようなルール作りをするのかなとは思ってます。有名になって、人がたくさん押しかけて汚されるというのも困るでしょうから、静かに「クニマスくん」にびっくりされないように、迷惑がられないようにやるということではないかと思います。

（記　者）

クニマスに関連してなんですけれども、今、生物学的な見地から先に調べるというお話がありましたが、仙北市を含め、地元では田沢湖の環境について問題視する方々も多いと思うんですけれども、その点について県としては何か。

（知　事）

田沢湖の環境浄化ということで、特定公共下水道等については前から取り組んでいますけれども、戦前の国の政策で酸性水を入れたというのがまだ残っています。ただ問題は、あそこは閉鎖水域で、非常に深い湖です。７０年間ぐらい酸性化になっていて、科学的に中性化するといういうことは、世界的に見ても今までたぶんやったことがない。水深が４２３メートルもありますので、中坊先生も言ってらっしゃるように、土も酸性化しているという可能性はあると思います。田沢湖の環境整備、環境浄化は必要ですけれども、たぶんクニマスが棲めるような環境浄化となりますと、石灰水で中和しても、今度は別の害が出てきます。一気に中和ということになりますと、今度は本当に水が死んでしまうという可能性もあります。非常に専門的な領域です。ご存知のとおりｐｈが１上がるというのは、５から６にするというのは２０％水増やせばいいわけじゃない、二乗で効いていきます。（クニマスを）田沢湖に返すという、これは非常にロマンチックでいいんですけれども、化学的・物理的にはそう簡単ではないということです。私は、普遍的な問題としての田沢湖の環境浄化というのは、これは今もやっていますし、今後も必要だと思いますが、急激にやったから急激に良くなるということではないと思ってます。

（幹事社）

他にご質問なければ、そろそろ時間なんですけれども、よろしいでしょうか。

では終了いたします。

（知　事）

　では、また来年もよろしくお願いします。今年一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。